

ホームページ掲載文章

2016年1月1日から2016年6月30日までに当院でCTを施行した
60歳以上の女性の患者さんへのお知らせ

当院における既存椎体骨折を有する患者抽出 -体幹CTを用いた抽出方法-

<骨粗鬆症治療の重要性について>

脆弱性骨折（低い外力で起こってしまう骨折）の既往を有する高齢者は新たに脆弱性骨折を起こす危険性が高いことがわかっています。そして、それら的高齢者に対して骨粗鬆症治療を行うことによって、新たな骨折発生を予防することが出来るということもわかっています。しかし、実際は骨粗鬆症が原因で骨折を起こした既往があっても、骨粗鬆症の治療が行われていない場合が多いのが実情です。また、手足の骨折と異なり、椎体骨折（背骨の骨折）は大きな痛みを伴わない形態骨折（単純X線で見える骨折）の場合も多いです。つまり、画像上、骨折を認める患者さんも骨折の事実を知らないということです。このような患者さんは、骨粗鬆症の治療が必要な患者さんですが、治療が行われていない状態です。多くの方が自分の骨折の事実や骨粗鬆症治療の必要性をわかっていません。

そこで、今回、当院で何らかの検査目的で体幹部CTを施行された患者さんの画像を用いて椎体骨折がどれくらい存在するのかを評価したいと考えます。また、その患者さんがどのような骨折をし易い因子（骨折の危険因子）を持っているかも検討したいと考えます。

今回は調査ですが、今後、形態骨折の事実を患者さんにフィードバックすることによって治療介入がなされ、新しい骨折が予防出来ると考えています。

なお、本研究には川崎医科大学の大学2年生も参加します。

1. 治療介入を伴わない「観察研究」で、既存資料のみを用いた研究であるため、新たに人体試料は採取しません。個人が直接同定される情報は収集いたしません。
2. 本研究は教員研究費のみを使用する研究のため、患者さんに負担が生じる事はありません。
3. 研究をするために必要な資金をスポンサーから提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが生じかねない状態を利益相反状態と言います。

この研究課題を実施する関係者は下記の如く奨学寄付金を受け入れています。利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、これらの企業の中には川崎医科大学附属病院で使用する骨粗鬆症治療薬を取り扱っている企業が存在しますが本研究とは直接関係がありません。

脊椎・災害整形外科

科研製薬（株）、ファイザー（株）、第一三共（株）、MSD（株）、エーザイ（株）

大正富山医薬品（株）、帝人ファーマ（株）、旭化成ファーマ（株）、中外製薬（株）

4. 研究に関してはご質問や同意に関する撤回などのある方は下記までご一報下さいますようお願い致します。尚、同意撤回書によって治療上不利益を受けることは一切ありません。

問い合わせ先：川崎医科大学附属病院 整形外科 大成 和寛
〒701-0192 倉敷市松島 577 TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1175
電子メール：seikei@med.kawasaki-m.ac.jp